

北区民まちづくり会議 摘録

1 日 時 平成29年7月18日(火) 午後6時30分～8時30分

2 会 場 北区役所 第4, 5会議室

3 出席者 別紙のとおり

4 次 第

(1) 報 告

- ・ 平成28年度の議論のまとめ
- ・ 平成28年度の議論を踏まえた取組実績
- ・ 平成29年度年度における部会での議論テーマ

(2) 議 題

- ・ ひと・まち活性化部会における協議内容等
- ・ 地域コミュニティ賑わい部会における協議内容等
- ・ 各委員の皆様の部会への所属及びスケジュール北区民ふれあい事業 平成28年度決算及び実績報告について

5 摘 録

○事務局

只今から、平成29年度 第1回北区民まちづくり会議を開会する。
開会にあたり、区長の松本から一言挨拶を申し上げる。

○区 長

<区長挨拶>

○事務局

それでは本日の会議を始めてまいり。

今回は平成29年度、最初の会議である。座長の志藤先生から順に所属団体名とお名前をお願いします。

～自己紹介～

○事務局

それでは、会議の進行については、本会議の座長である志藤先生をお願いします。

○志藤座長

それでは、手元の次第に従い、議事を進行させていただく。報告1「平成28年度の議論のまとめ」及び報告2「平成28年度の議論を踏まえた取組実績」の2件をまとめて、事務局から説明をお願いします。

○事務局

<資料1-1, 1-2及び資料2に基づき説明>

○志藤座長

ただいまの事務局からの説明について、質問や意見などがあれば、お願いします。

昨年、お二人の部会長に何度もワークショップを開いていただき、そこで出た意見をまちづくりアドバイザーの方に上手くまとめていただいた。

関わっていた者としては、いろんな意見を聞くことができ、楽しい時間だった。その結果として、今ご報告があったとおりであるが、いかがか。

○A委員

地域コミュニティ賑わい部会で疑問に思った点について。北区は18学区あるが、そのうち自治連合会があるのは8学区、半分以上の10学区は自治連合会がない。自治会・町内会の加入促進を議論するのであれば、まずは、自治連合会を作るべきという議論を深めるべきではないか。

昨年度参加された方々が、自治連合会がない現状について、どれだけ認識して議論されていたかを疑問に思っている。町内会の取りまとめ役として自治連合会があり、自治連合会の中に各種団体があるというのが理想の形。

自治連合会のない10学区は社会福祉協議会の会長が地域の代表を兼ねられているが、それが本当に地域にとっていい形なのかを見直す時期に来ているのではないかと思う。

自治連合会のない状態で、自治会に加入しようという話をするのはどうかと思う。根本的に地域をどうしていくかのビジョンが大事。今期に関してはそういった部分を考えていかなければいけないのではないか。

○B委員

A委員が言われたことは、自治会加入などの問題は社会福祉協議会が取りまとめるのではなく、自治連合会、市政協力委員連絡協議会がまとめるべきであるということだと思うが、そのとおりだと思う。

また、空き家問題についてであるが、上賀茂学区でもほとんどが借家。借家にいかに入居してもらおうかが空き家対策の鍵になる。入居したくても家賃が高くて入れない現状がある。

また、空き家を解体して更地にすると固定資産税がかかるため、柱だけ残したような土地もある。危険な物件であり、行政から所有者に交渉などしてもらえないかというような話も地域から出てきている。

町内会の加入者については、区役所から取り次いでもらい、7軒程加入していただいた。それ以外にも、何軒かのマンションが加入を希望されていたため、町内会長に説明に

行ってもらおうとしたところ、マンションが個別に加入されると、回覧板のやりとりなど、手間が掛かるということで、難色を示された。

町内会長へは、この個別世帯の加入をきっかけに、マンションのその他世帯も加入してくれるようなことがあるかもしれないのでと、何とか行ってもらうように説得したが、そういった認識の方もいる。このようなことについても、今年度の部会でご意見をもらえたらと思う。

○関谷副座長

今年度の実績として上っている本庁の取組の中で、重点地区における空き家調査があると思うが、この結果については地域にフィードバックされているのか。地域との連携が重要だと思うが。

○事務局

地元学区の地域代表者に情報共有している。

○C委員

A委員が言われた自治連合会についてであるが、元々村で、後に京都市に編入されたところについては、村を引き継いで自治連合会ができています。社会福祉協議会は各学区で組織をつくるということになっているので、自治連合会がない学区については、社会福祉協議会が中心になって自治連合会の役割を担っている。

地域内での人間関係が理由で自治連合会ができにくい地域もあると思うので、社会福祉協議会が中心になって担っていただけたところについては、そのまま頑張ってもらいたいと思う。

○A委員

社会福祉協議会では、福祉の分野で考えなければいけないことが沢山出てきている。地域全体のことについては、広い範囲で自治連合会が担うべきであると考えます。

社会福祉協議会が全体を見る余裕があればそれでいいかもしれないが、社会福祉協議会が担う福祉部分が多様化しているため、それが難しくなっている。役割分担が大切だ。

○北区長

A委員が言われていることについては、大変重要なことであり、京都市全体で考えていかなければいけないテーマである。

資料1-2に記載している「地域力アップ学区活動連携支援事業」については、地域活動への参加者の増加など、地域力アップに向けた取組である。年間30万円の補助金を利用して、3年間実施していただくものであり、全市で4学区が認定されている。北区では紫野学区で実施している。

この取組の主旨が、まさに先ほどA委員がおっしゃったことである。

こういった形でまとめるのが地域にとっていいのかを、地域の様々な団体がワークショップなどを重ねながら検討している。

自治連合会ができて、全体を束ねていくのが望ましいという観点で議論を進めていただ

いており、紫野学区をモデル学区として、他学区でも広めていけないかと考えている。

○志藤座長

住民同士のつながりを、地域でどうつくっていくのか。今までの経緯の中で、どう発展的に考えていけるかが重要である。B委員が言われたマンションの個別加入の事例については、今年度のテーマでもあるので、次の報告の資料3について、事務局から説明いただく。

○事務局

<資料3に基づき説明>

<資料4-1に基づき説明>

○志藤座長

昨年のテーマであった空き家問題については、区役所、地域、全市の取組として、引き続いて実施するが、この部会で取り上げるテーマとしては次のステージに移って、子どもを産みたい、育てたいと思える環境づくりについて考えていきたいということである。

まず、この部会について、ご意見をいただければと思う。

○D委員

地域の子育てサロンでは、就園前の子どもとお母さんのつどいのサポートをしている。そのような場に来ていただけない親について、民生児童委員も声掛けをさせていただいているが、町内会でも紹介してもらえたらと思う。

自分自身の経験だが、地域で子どもが産まれたことを知るきっかけは、地藏盆だった。そこで仲良くなって、運動会の案内をし、競技に出ていただいたり、その後はPTAの役をさせていただいたりというつながりができた。町内会がやはり重要である。

○E委員

今後子どもを産むかもしれない世代の一人として、部会では発言させていただきたいと思っている。

どうしたら自分が北区で子どもを産みたい、育てたいと思えるかということについてだが、そもそも、若い人が行政区を意識して子育てについて考えるのか？と感じている。そういうことを北区で取り組めば、北区の一人勝ちなのかなという気がする。

転入者向けに、北区で育てようということをPRすればいいのではないか。

委員以外にNPOや大学生を部会に入れるのはとてもいいと思う。それ以外に、北区で子育てされている当事者に声を聞いてもいいのではないかとと思う。

○D委員

町内会費の徴収金額が高いことや用途が不明な点について。

町内会費が一括で徴収されるが、その中には体育振興会で使われるもの、社会福祉協議会で使われるものなど様々な用途がある。

しかし、その中には自分とは関わりが薄く、払いたくないものまで入っている場合があ

る。若い世代は、お金が何に使われているかということについて、気にするのではないか。

町内会に入ってほしいのであれば、自治会に入るメリットについて明確にした方がいいのではないかと考える。

○F委員

北区での子育てについて、言っても仕方ないことであると思うが、公園が少ないと思う。ベビーカーで動くお母さん方が行きやすい、子どもを遊ばせやすい場所が少ないと感じる。

○B委員

先ほどD委員が言われたことは、町内会にどんなメリットがあるのか、また、町内会費の分配が不明であるということか。

○D委員

各種団体がお金を集める労力が大変なので町内会費で一括徴収されているのではと思うが、それが使途不明と言われることにつながっているのではないか。

○B委員

自治連合会から各種団体に町内会費が分配されている。例えば、体育振興会のイベントについて、好き勝手にスポーツを楽しんでいると思われるかもしれないが、真意は町内対抗で競技を行うことで、知らない人同士が力を合わせて頑張りましょうという交流を生み出すことが目的。

ソフトボールやボウリングなど色んな大会を用意しているのは、女性や子どもでも参加しやすいようにといった点がある。

○D委員

町内会費が無駄遣いされているとは思っていない。各種団体の方についても、学区のために働いておられると思う。学区によって取組内容についても違いはあると思うが、いずれにしても、地域で各種団体の活動についての理解が必要である。

○B委員

確かにそうであり、各種団体の活動についての広報も必要である。

○C委員

広報の話が出たが、役員をやっている人は、団体の活動内容やお金の使途についても分かっているが、地域の方は、団体が何をしているか理解されていない。

自治連合会傘下のいろんな団体が地域の方々の身近なところで活動していて、その活動は自治連合会で支えられているということを理解してもらわないといけない。

また、保育園としては、住まいの近くの保育園に入りたいのに入れないということがあった場合に、子育てがしにくいと思われる。できれば学区の中にある保育園に行けるようにしてほしいと思う。

上賀茂学区では、保育園、幼稚園、小学校の保護者会が連携して取組をしている。その

点は大事であると考えている。

○G委員

まず、魅力ある町内会について、元町学区は社会福祉協議会が自治連合会を兼ねている。社会福祉協議会の行う事業については、町内会加入者が対象になる。例えば、事業の案内をする運動会のプログラムを配る、敬老のお祝いをするなどは町内会加入者限定である。これは町内会に入っていない人に意地悪をしているのではなく、逆に、町内会に入れば、こんなメリットがあるので町内会に入ってくださいということである。町内会活動の見える化を図っている。

もう1点、子育てについて。町内会の関係性が希薄になり、乳幼児の把握がしづらいということが言われているようであるが、元町学区では、新しくお生まれになったご家庭に1回5千円の出産祝をお渡している。最近はその周知されてうまく循環している。そのお宅に、社会福祉協議会会長と町内会長が、お祝い金と共に子育て支援のリーフレットを持って訪ね、何か困りごとがあった場合には町内会長にご相談くださいねということをお伝えしている。

“町内会”と地域住民が密接に連携し、日常的にコミュニケーションが取れることが重要であり、そのことを町内会長、自治連合会、社会福祉協議会で共通認識を持つことが大切である。

元町学区の場合、町内会長が1年交代になっているので、その辺りの意識の継続を社会福祉協議会として取り組まなければいけないと考えている。

○志藤座長

ひと・まち活性化部会についても議論が進んでいるので、事務局から資料4-2についても説明していただく。本日は、この2つの部会をこういった形で進めていかどうかの了承を最後に取りたいと思っている。

○事務局

<資料4-2に基づき説明>

○志藤座長

改めて、両部会について、ご意見をいただければと思う。検討の方向性についてはあくまでも例と考えていただき、今後ご意見を踏まえて変更していければいいと思う。

○H委員

どちらの部会についても、当事者の意見をどう拾うかが大事であると思う。子育ての部会は問題が明確に出てくると思うが、地域コミュニティについては、なかなか難しい問題である。

加入しておられない方が、何を楽しいと感じられるか、どう魅力を伝えるかを掴むのが難しいと思っている。地域代表や町内会長に来てもらって部会を開いても、答えが見えてこないのではないかな。

加入していない人自身にどういうことを望んでいるかを聞かないと、解決ができないの

ではないか。これまでの取組と同じことをしては打破できないと思う。

○G委員

町内会の加入率を区役所では把握しているのか。また、加入率がよくない原因は分かっているか。

元町学区については、加入率がよくない町内が2～3町あり、その町は、なぜ低いかを分析している。なぜ加入しないかという点について分析して対策することが加入率促進につながると思う。

○志藤座長

町内会の加入率については今年の会議の資料として出されているものがあるので、今年の議論に入るまでに共有させていただく。町内会加入についてのアンケートがあるが、その理由についてはかなりざっくりしているので、地域で聞いておられる生の声の方が参考になると思われる。

○事務局

平成28年度にアンケート調査を実施しているので次回の部会で提出させていただくが、内容はざっくりしている。中には、そもそも町内会の加入について地域から声が掛からなかったというような意見もある。

○志藤座長

また、先ほどH委員が言われた、当事者の声を聞くという点については、そういった方の参加は難しいのではないかと考えている。今年の地域コミュニティ賑わい部会で、出されている資料などを踏まえたうえで、今年度については少しステップアップしていく。

先ほどB委員からもお話があったように、マンションの個別世帯の受入について、または、既存加入者がやめていくということについては、難しい問題であると思う。そこに今年度は踏み込んでいこうとしている。

北区の中でも、取組が進んでいるところがあり、例えば上賀茂学区でも、戸別訪問して加入について呼び掛けをされている。そのような活動を通じて得られている知見などを通じて議論を深めていければ、次のステージに進みやすいかと思う。

今年の議論の内容については、丁寧に共有してもらおうようにする。

○H委員

北区や京都市内外に関わらず加入率が上がっていて、こんな取組をしたよというような成功事例を勉強する場があると新しい展開が見えると思う。

○志藤座長

例えば、地蔵盆の開催場所と時間とルールをパンフレットを作っておられたり、マンション加入のルールを決められているような事例が他学区でもあると思うので、事務局で収集してもらおうようにする。

○事務局

できるだけ多くの事例をご紹介できるようにする。

○A委員

中川学区においても、既存加入者が辞めそうになるような話が出てきていた。自分は、自治会に入っているのが当たり前という感覚であったが、田舎でも自治会がなくても何の不便もないと言われる方が出てきている、そんな中で、地域のコミュニケーションの重要性をどう伝えていくか。

各種団体が必要なのか必要でないのか、各種団体が何をしているのか、地域にとって何が大事かを地域で考えていく必要がある。

辞める方々を引き留めるということだけでなく、地域にとってどういう支え合いが必要かということを考える必要があり、その視点が少し抜けているように感じる。

○藤野副座長

子育ても自治会町内会も関連している内容であると思う。

今、社会の変化が非常に激しい。社会の変化が激しくなると、人間関係にも大きな変化が出てくる。

町内会が人間関係の変化に付いていっていない、旧態依然としていたならば、私たちがメリットだと感じていることが若い人にとっては、もはやメリットではないという状況になる。町内会も社会の変化や、人との関わり方の変化と共に変わっていく視点が必要になってくる。

例えば、若い世代は回覧板のことを大変非効率なものと思っているようである。LINEやSNSを使えば瞬時に情報が拡散する。わざわざ忙しいのに家に持って行くということについて、疑問に思っている。

昔は、回覧板を渡す際のコミュニケーションが大切で、そこに意義を感じていたかもしれないが、今の若い人がどう思うのか。また、回覧板のよさが分からない若い人を一概に批判していいかどうか、その辺りの世代間の考え方の違い、ギャップを理解しながら今後を考えていかないといけないのではないか。

○関谷副座長

専門的な研究レベルでは、町内会、自治会の活動が形骸化していると言われている。

活動されている人が高齢、参加される方も高齢で、若い人、転入してきた人がそれに対応できていない現状。

部会では、実際に地域活動をしてこられた、地域代表の方も来られるので、地域活動として、どこを変化させてもいいか、どこは変えてはいけないかという点についても議論できればと思う。時代が変わっている分だけ、体制も変化しないといけない時期に来ていると思う。

○志藤座長

学生にB委員が言われたことなどを聞かせてどう受け止めるかを聞いてみたいと思う。たくさんの方の努力によってつくられてきている地域に住んでいるということに気づい

て、若い方がどう感じるか。地域の仕組みを伝えていくということの責任は大人が担っている。

2つの部会について、ご提示している内容で進めさせていただくということによいか。それぞれの部会の1回目に情報共有や事例共有という場を設けているので、区内外を問わず、参考になるような事例を開示しながら議論を進めていくということをつけ加えさせていただくということによいか。よければ拍手をお願いします。

(拍 手)

○志藤座長

次に、各委員の皆様の部会への所属及びスケジュールについて、事務局から説明をお願いします。

○事務局

<資料5及び資料6に基づき説明>

○志藤座長

資料5のラインナップについて、他部会に変わりたいな、または、両方へ行きたいなということがあればお伝えいただきたいが、どうか。両方の部会にお越しいただきたいところが趣旨であるため、できる範囲で両方にお越しただければと思う。

第1回目の地域コミュニティ賑わい部会については、9月29日の18時30分から開催させていただく。

また、本日ご欠席の委員の方々には、後日、事務局の方から、委員の方のご意向を確認していただく。

それでは、今後、両部会長を中心に、各部会において、議論を深めていただきたい。よろしくをお願いします。その他、会議全般について、何かご意見などがあればをお願いします。

(→質疑応答なし)

それでは、これで本日予定されていた議題はすべて終了した。委員の皆様、ありがとうございました。それでは、事務局にお返しする。

○事務局

志藤先生、ありがとうございました。

今後、部会において更に議論を深めていただいたいと考えている。委員の皆様のお力添えを、どうかよろしくをお願いします。本日はこれで終了する。

長時間に渡り、ありがとうございました。